

■佐分利貞男 外交官。第一次世界大戦後の諸問題に活躍するも、中国公使で一時帰国中、謎の自殺(他殺説も)。

さぶりさだお

沖縄県編入・1879＝ 東京府士族佐分利好直の男として生まれる。

明治14年政変1881＝ 2歳：

資性機敏。

初の対等条約1888＝ 9歳：

帝国憲法発布1889＝10歳：

日清戦争始・1894＝15歳：

八幡製鉄始・1897＝18歳：

日露戦争終・1905＝26歳： 東京帝国大学法科大学卒業，外交官及領事官試験合格。

同期合格者中に佐藤尚武，1期前に松岡洋右，1期後に広田弘毅・吉田茂らがいる。

満鉄発足・1906＝27歳： 外交官補としてフランスに赴任。

アヲチ創刊・1908＝29歳： 外務省参事官に任じられ，

韓国併合・1910＝31歳： 条約改正係を命ぜられる。

明治天皇没・1912＝33歳： 大使館三等書記官としてフランスに在動。大使館二等書記官に昇進し，

21ヶ条要求・1915＝36歳：

民本主義・1916＝37歳： 一等書記官となって，

本格政党内閣1918＝39歳： 帰国。東宮御学問所御用掛となり，外務書記官，人事課長を経て，欧州へ出張，

ベルサイユ条約・1919＝40歳： *パリ平和会議全権委員随員となり，西園寺公望・牧野伸顯全権委員らのもとにおいて活躍。東宮御学問所御用掛を免ぜられて，大使館一等書記官としてアメリカへ赴任。

原敬首相暗殺1921＝42歳： 大使館参事官，高等官二等。幣原喜重郎大使ついで埴原正直大使の信頼を得，ワシントン会議および日米移民問題などの重要外交案件にあたって，

護憲三派圧勝1924＝45歳： 帰国。外務省通商局長となる。

治安維持法・1925＝46歳： *山県伊三郎特派使節に随行し，インドシナに出張。高等官一等。北京における中国関税特別会議(北京関税会議)の代表随員を命ぜられ，ついで中国治外法権に関する委員となる。関税特別会議において，日置益・芳沢謙吉両全権を助けて，中国側王正廷・顧維鈞らと折衝。

円本時代始・1926＝47歳： 関税特別会議に出席中，北京で夫人文子(小村寿太郎の長女)猩紅熱で死去。外務省条約局長。

金融恐慌・1927＝48歳： *ジュネーブ海軍軍縮会議に参列の全権委員随員を務めた後，大使館参事官としてイギリス赴任。

世界恐慌・1929＝50歳： *幣原喜重郎外務大臣の強い信頼のもと，中華民国駐在特命全権公使を命じられ，南京において日中通商条約改訂その他両国国交調整交渉を開始したが，打合せのため一時帰国中，箱根富士屋ホテルにおいて死体で発見される。ピストル自殺といわれるが，他殺説もある。